

キャリアの転機

— 降りて幸せになった人と、しがみついて消耗した人

成功：働きながら軸を増やした転身（楠木新さん）

- ・大手生保の会社員として勤めるなか、40代後半にこころの不調で休職を経験。
- ・会社を辞めるのでも競争に戻るのでもなく、勤務の外で取材・執筆というもう一つの軸を育てた。
- ・二足のわらじを十年以上続け、社外の人脈と実績を静かに積み上げた。
- ・定年後は作家・大学教授へ。『定年後』（中公新書）はベストセラーに。

失敗：降りられなかった人（典型パターン）

- ・同期トップで昇進を重ね、ものさしは社内の序列ただ一本。家族も趣味も「上がってから」。
- ・ポストオフの内示で、自分が何者か分からなくなる。それでも積み上げた地位が惜しくて辞められない。
- ・健康と眠りが崩れ、名刺の外に自分を語る言葉がない。
- ・退職の日に残ったのは「あんなに頑張ったのに」という言葉だけ。

分岐点

評価軸を、一本から多本に組み替えられたか。

自社・自組織に当てはめると（検討事項欄にどうぞ）

1. いまの自分を測っているものさしは何本あるか。会社が無くなっても残るのは何本か。
2. 「上がってから」と後回しにしているものは、本当に上がってからでないとできないか。
3. 今週、社外のものさしに触れる30分をつくれるか。小ささは問題にならない。

